

永田みなみ台地区

第2期計画の振り返り（平成22～27年度）

☆ふれあい、楽しく仲間づくり！

高齢者の孤立化防止のために・・・

【成果】

- ・高齢者サロン「おしゃべり会」の会場を2箇所（1街区、2・3街区）に分けて実施し、参加しやすくしました。
- ・異世代交流事業「あじさいの会」ではコンサートが好評で、男性や新しい住民も含めて、誰でも気軽に参加できる場にしたことにより、高齢者の孤立を防止しました。
- ・「高齢者世帯サポート委員会」にて、一人暮らし高齢者世帯の状況を把握すると共に、見守りの協力者を集めて、見守り体制づくりの検討を行いました。



おしゃべり会

【今後に向けて】

- ・一人暮らし高齢者や高齢者夫婦等の世帯を日頃から近隣住民が把握し、孤立しないように、地域の中で緩やかな見守りができるようにします。
- ・男性が参加しやすい場をつくり、参加者同士交流を図れるように工夫することで、男性高齢者の孤立防止を強化します。
- ・住民がお互いに顔の見える関係をつくり、見守りできる仕組みをつくりまします。

認知症の方への見守りのために・・・

【成果】

- ・認知症サポーター養成講座の受講者の中から「認知症見守り隊」を組織し、研修会や施設見学を実施し、認知症への理解を深めました。
- ・「認知症見守り隊」から「永田みなみ台地区見守り隊」へ改称し、見守りの対象を広げて訪問活動を行いました。
- ・徘徊に対応できるように、本人の連絡先等がわかるシールを作り、住民向けに配布しました。
- ・認知症サポーター養成講座を地域、保育園、小学校、中学校で実施し、子どもから大人まで幅広い世代で認知症サポーターを増やしました。



認知症キッズサポーター養成講座

【今後に向けて】

- ・認知症サポーターを地域の中で多く育て、地域全体で認知症への理解を深めます。
- ・認知症の理解啓発を進め、認知症の人に優しい地域をつくりまします。
- ・地域と専門職が連携し、日頃から情報共有できる体制をつくりまします。

子育て家庭の孤立化防止のために・・・

【成果】

- ・子育てサロン「まんま」を開設し、多くの親子が毎月集える場所をつくりました。
- ・子育てサロン「まんま」の担い手に、外国人や高齢者が加わり、国や世代を超えて親子が交流しました。
- ・「永田支えあい祭り」等の行事を通して、地域に参加し、お互いに交流する親子が増えました。



まんま

【今後に向けて】

- ・子育てサロンの担い手を増やし、地域全体で親子を見守り、親子が地域に参加する機会を増やします。
- ・外国人や一人親世帯等、支援が必要な子育て世帯を見守り、地域の中で孤立させない取組を進めます。

障害児者やその家族が暮らしやすい街にするために・・・

【成果】

- ・地域ケアプラザの障害児余暇支援事業に協力する地域のボランティアを増やしました。
- ・障害児の通学付添いを日常的に行うボランティアを発掘し、活動内容を住民の中で共有しました。



障害児余暇支援事業

【今後に向けて】

- ・障害児者に対する地域の理解を深めて、障害児者支援の輪を広げます。
- ・地域の中で、障害児者と住民が交流できる機会をつくります。

災害時に高齢者や障害者など援助が必要な人への支援ができるように・・・

【成果】

- ・災害時等に備えて、認知症や一人暮らし高齢者等、支援が必要な高齢者を日頃から把握するために、「永田みなみ台地区見守り隊」や「高齢者世帯サポート委員会」にて、見守り体制づくりの検討を行いました。
- ・地区社協広報紙「ひだまり」を発行し、いざという時に役立つ情報を住民に向けて発信しました。



被災者の体験談を聴く会

【今後に向けて】

- ・災害時に住民同士助けあうために、日頃から声をかけあえる関係を促します。
- ・災害時の備えを誰もが日頃から行えるように、防災に関する情報を住民にわかりやすく発信します。

第3期計画（平成28～32年度）

地域の特徴

（データ＝平成26年9月末日現在）

中高層住宅が建ち並ぶ南永田団地を主体にした地区です。団地一帯は広域避難場所に指定されています。

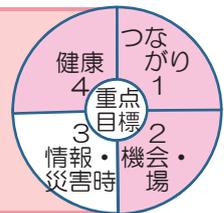
地区人口＝約4,500人
 年少人口比率＝7.7%
 高齢人口比率＝36.7%
 総世帯数＝約2,400世帯
 平均世帯規模＝約1.9人



人と人がふれあう街づくり

高齢者を地域で見守り、孤立させないために・・・

5年後の将来像：高齢者を地域で見守る体制ができており、男性も気軽に参加できる場が増えて、集いの場が充実している。

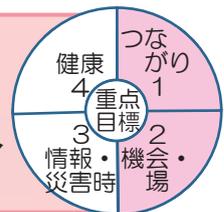


具体的な取組等

- ・集いの場に、男性高齢者も参加しやすいように、男性のニーズに合った企画を実施し、男性の担い手も増やします。
- ・「高齢者世帯サポート委員会」にて、一人暮らし高齢者世帯や高齢者夫婦世帯を把握し、住民がお互いに見守りできるネットワークをつくります。
- ・1街区以外にも集いの場を開設して、住民が誰でも気軽に参加できるように工夫し、高齢者とその他住民が日頃から顔の見える関係がつけられる環境を整備します。
- ・既存のサロンや食事会など様々な場面で、介護予防につながる運動や気軽に参加できる健康づくりに取り組む機会を増やします。

認知症になっても、誰もが自分らしく暮らせる街にするために・・・

5年後の将来像：地域全体で認知症に対する理解が進み、認知症の人を温かく見守り、受け止められる街になっている。

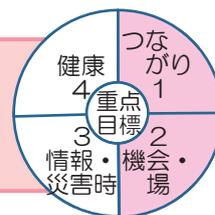


具体的な取組等

- ・認知症サポーター養成講座やキッズサポーター養成講座を地域や学校で毎年実施することで、認知症サポーターを地域に増やし、認知症への理解を広げます。
- ・あらゆる世代の人が認知症を理解することを目指し、認知症サポーター養成講座を幅広い対象者に実施します。
- ・「永田みなみ台地区見守り隊」の中から、認知症等、見守りが必要な高齢者を定期的に訪問し、実践活動できるメンバーを増やし、育てます。
- ・認知症予防につながる活動を実施し、予防活動のPRに努めます。

子育て中の親と子を地域で見守るために・・・

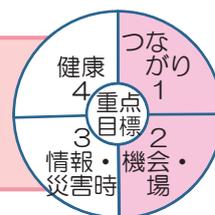
5年後の将来像：子育て中の親と子が地域の中で孤立せず、地域で子どもを育てる環境が整っている。

**具体的な取組等**

- ・地区社協広報紙等を活用して「子育てサロン」の周知を強化し、地域住民に広く知ってもらうことで、男性や子育て中の母親等も含めて、新たな担い手を確保します。
- ・日本語が苦手な外国人親子も気軽に参加できるように、チラシやポスターを工夫する等して、子育てサロンと外国人担い手の存在を宣伝します。
- ・親子が参加しやすい地域の行事を多く実施することで、親子が地域とつながりをつくれる機会を増やします。
- ・子育て中の親が、いつでも気軽に相談できる場となるように努めます。

障害児者が地域でいきいきと暮らせるために・・・

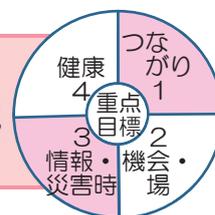
5年後の将来像：障害があっても、誰もが地域の中で役割をもち、住民同士、支えあう関係ができている。

**具体的な取組等**

- ・障害児者を支援しているボランティアの活動内容等について、ボランティア自身が地域住民に直接伝える機会をつくり、障害に対する地域の理解を深めます。
- ・地区社協広報紙等を活用し、障害についての正しい知識を地域の中で積極的に情報発信し、住民の障害児者に対する理解を深めます。
- ・障害についての理解につながる研修会や講座を実施し、障害児者を支援するボランティアを発掘・育成します。

災害時にお互い助けあえる街をつくるために・・・

5年後の将来像：日頃から住民の防災意識が高く、災害時にお互いに声をかけあえる地域になっている。

**具体的な取組等**

- ・防災に関する情報を地区社協広報紙に掲載したり、地域のイベント開催時等に参加者へ伝えたりして、住民の防災意識を高めます。
- ・「永田みなみ台地区見守り隊」と「高齢者世帯サポート委員会」が連携し、災害時に支援できるボランティアを育てます。
- ・2、3街区はUR都市機構と連携しながら、要援護者支援に取り組みます。